

実践報告

小学校社会科討論授業のエスノメソドロジ的分析

浦川 雅雄* ・ 佐長 健司**

Analyzing an Elementary School Social-Studies Discussion Lesson from the Perspective of Ethnomethodology

Masao URAKAWA* and Takeshi SANAGA**

【要約】

小学校第6学年社会科授業における「幕末の佐賀藩において、藩主は教育改革と財政改革のどちらを優先すべきか」という論題での討論では、児童は活発に発言した。それらの発言をエスノメソドロジ的に分析すると、討論成立の基盤として、語られない社会的共有知があることが明らかである。

【キーワード】

エスノメソドロジー、社会的共有知、討論授業、幕末佐賀藩の藩政改革

1 はじめに

本小論は、2011年7月に佐賀大学文化教育学部附属小学校の研究発表会において公開した第6学年3組の社会科授業についてトランスクリプトを作成し、分析したものである。授業は、歴史の討論である。

本学部附属小学校と附属中学校の社会科教育研究部は「市民を育てる社会科学習の創造」を研究テーマとしている。そのため、民主主義社会の形成者となる市民を育成する目的を明確にして、現実の社会問題や論争問題を内容として取り上げ、方法として討論を位置づけ、両校が連携して単元授業の開発やカリキュラム研究を行っている。

そこでは、社会科授業における討論のあり方、その指導についての考察が求められる。その1つとして、社会科授業において討論を成立させる基盤について考察したい。問題意識を明確にさせたい、発言の内容や方法を指導したりすることは、これまでも研究されてきた。しかし、それでは不十分である。なぜなら、それらは1人ひとりの児

童の発言する力を高める研究であり、討論する児童相互の関係論的な視点からの研究がなかったからである。

そこで、関係論的な視点から会話分析における大きな研究成果を得ているエスノメソドロジーに依拠して討論授業の分析を行う。以下では、第1に分析方法について述べる。それは、エスノメソドロジーが明らかにする背後期待の概念に依拠する方法である。背後期待としての語られない社会的共有知を観点とする分析である。第2に、討論が成立する場面においては、社会的共有知が確認できることを明らかにする。第3に、討論の成立が困難な場面では社会的共有知が確認できないことを明らかにする。こうして、社会的共有知が討論の成立には欠かせないことを論じたい。

2 授業分析の方法

授業分析の方法は、会話分析等によく知られているエスノメソドロジー (Ethnomethodology) に依拠することにする。それは、人々 (ethno) の

*佐賀大学文化教育学部附属小学校

**佐賀大学文化教育学部

方法論 (methodology) という意味であり、会話をはじめとして、人々の日常的な実践における効果的な方法論を指し示す。また、それを記述して研究する社会学的研究の名称でもある。

たとえば、日常における会話は、会話する者同士による共同行為であるとする。会話が円滑に進むように、共同行為が成立するには一定の基盤が必要である。したがって、会話等の秩序の成立を明らかにするには、その基盤を可視化する必要がある。そこで、エスノメソドロロジーの創設者であるガーフィンケル (Geffinkel, H.) は次のように述べる。長くなるが、引用する。

日常活動の安定した特徴を説明するにあたり、社会学者は通常、家族世帯や職場といったなじみぶかい場面を選定し、これらの安定的な特徴に寄与している諸変数を問題にする。しかし、通常、次のような考察はまったく行われていない。それは、社会的に標準化され社会の規準となっている特徴、すなわち「みられてはいるがしかし気づかれずに」(seen but unnoticed) 日常的な場面の背後にあると期待されている特徴についての考察である。社会の成員は、この背後期待 (backgroundexpectancies) を解釈図式として使用している。成員がこれを使用することにより、現実の外観は、成員にとりなじみぶかい「出来事の」外観として認識され理解可能なものになる。(ハロルド・ガーフィンケル「日常活動の基盤—当たり前を見る—」, G. サーサス他『日常性の解剖学—知と会話—』北澤裕他訳, マルジュ社, p. 34)

ここでは、「背後期待」と述べられているが、それは会話等の共同行為を可能にする、社会的な共有知だと考えられる。このことについて明らかにするために、ガーフィンケルが例示している会話をみてみよう。

夫：今日、ダナは抱き上げてやらなくてもパーキング・メーターにうまいこと1ペニー入れたよ。

妻：あなた、あの子をレコード店に連れていったの？ (同書, p. 37)

この場合は、会話として成立しているのか。成立の可否は、夫と妻との事実的知識の共有の有無による。共有されなければならない知識とは、たとえば少なくとも次のようなものであろう。

- ① ダナは二人の息子であり、夫がダナを幼稚園まで自動車で迎えに行ったこと。
- ② 夫がダナを迎えに行った帰りに、ダナを連れてレコード店に行ったこと。
- ③ 2人はレコード店に入る前に自動車をコイン・パーキングの駐車場に入れたこと。

これらのことが共有知として (他にも膨大に必要)、夫と妻の2人の間に成立しなければならないはずである。また、この会話を読む私たちにも、それが必要である。そうでなければ、この会話はかみ合っていないと思えるであろう。

たとえば、次のような会話であれば、どうであろうか。上の場合を変形したものである。

夫：今日、ダナは抱き上げてやらなくてもパーキング・メーターにうまいこと1ペニー入れたよ。

妻：あなた、スーツはどうしたの？

この場合は、先の場合とは異なり、別の共有知が必要となるであろう。先の①～③の共有知にのみ依存するのでは、かみ合わない会話となる。すると、夫は「お前は何を言っているんだ？」と、多少のいらだちを抱えて妻に問うことになるろう。

これまで述べてきたように、会話されたことは語られない共有知を基盤として、それを背後期待として、その意味が与えられるのである。このような共有知の観点から、以下では分析を行う。

3 単元授業「幕末佐賀藩の改革—君ならどうする—」の概要

(1) 学習内容について

江戸初期、身分制度の確立、大名の統制や参

勤交代などにより確立した幕藩体制は、天保期に本格的な行き詰まりを示した。一方、佐賀藩では、藩政の成立当初から慢性的な財政難に喘いでいた。家臣に配分した知行地が多く、藩の財源となる蔵入地が少ないからである。また、幕府からの普請役、さらに参勤交代の費用、加えて長崎の警備費用も累積し、藩財政は窮乏していた。こうした財政難は、凶作・大飢餓、大洪水・台風などの自然災害により、さらに深刻となった。そのような時代に藩主としての実権をにぎった鍋島直正はつぎつぎと藩政改革を進めていく。佐賀藩の藩政改革は「財政改革」「教育改革」「軍事改革」に大別され、佐賀藩の技術力や人材は明治維新でも大きな力を発揮することとなる。

過去の時代においても、当時の人々は様々な現実の問題に直面し、解決しながら生きてきている。東日本大震災の復興やその財源の問題等が山積する現代および未来を生きる児童に、身近な自分たちの地域である佐賀藩が行き詰まりをどう打開していったかを調べて考えさせることは、今後の歴史や公民の学びにもつながり、よりよい社会の改革について吟味しようとする児童を育成することにもつながる意義あることと考えた。

(2) 単元の目標と評価基準

◎指導目標

江戸時代の幕藩体制や佐賀藩の深刻な財政難について理解させ、幕末佐賀藩の藩政改革の優先順位について討論をすることで、よりよい社会を形成するための考えを高める。

○評価規準

- ・江戸時代の幕府や佐賀藩の状況に関心をもち、問いを作成して藩政改革の目的や内容について意欲的に調べようとしたり、進んで討論に参加しようとしたりする。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- ・当時の状況をふまえて佐賀藩の財政・教育・軍事面の改革について考え、表現することが

できる。(社会的な思考・判断・表現)

- ・幕末佐賀藩の状況や財政・教育・軍事面の改革についての資料を取捨選択し、自分の考えの根拠として活用することができる。

(観察・資料活用の技能)

- ・幕藩体制と佐賀藩の改革を関連付けて理解することができる。

(社会的事象についての知識・理解)

(3) 単元の指導計画

10時間を配当し、次のように展開した。

- | | |
|------|---|
| 第1時 | 佐賀藩の当時の状況や改革の概要をつかみ、パフォーマンス課題(単元を貫く問い)とルーブリックを知る。 |
| 第2時 | 江戸幕府や幕藩体制と佐賀藩について調べて考える。 |
| 第3時 | 身分制度と農民や町人のくらしについて調べる。 |
| 第4時 | 鎖国政策と佐賀藩の長崎警備について調べて考える。 |
| 第5時 | 鍋島直正が藩主になった当時の佐賀藩の財政について知り、藩政改革について調べる。 |
| 第6時 | 立場を決め、立論を作成して検討する。 |
| 第7時 | 財政改革派と軍事改革派の討論。 |
| 第8時 | 教育改革派と軍事改革派の討論。 |
| 第9時 | 財政改革派と教育改革派の討論。 |
| 第10時 | パフォーマンス評価に取り組む。 |

以下では、第9時の財政改革派と教育改革派の討論の授業について紹介し、分析する。

4 討論授業の実際と分析

(1) 確認できる社会的共有知

まず、はじめに社会的共有知が確認できる場面をみておこう。たとえば、次のような教育改革派から財政改革派への反論である。

409 I : 財政改革をしなかったら、もっと借金

が増えるんじゃないですか。

410U：その資料はあるんですか。

411**：それ資料いるの・・・（財政改革派児童より）

412T：借金は返せるんですか。

413P：ちまちま節約していても借金は減らないから、大幅に節約しないと借金は減らないと思います。

414U：「次に借金を貸してもらえない」という資料はあるんですか。

415U：節約をしたら自分たちが使う分がなくなるのではないですか。

416V：Pくんの意見に対して、借金はちまちまでも、こつこつ返すことが大切だと思います。

417K：Uくんの「次に借金を貸してもらえない」という質問に対して、貸した方は利益がないと貸さないとします。

ここでは、413Pと416Vの発言に着目したい。児童Pは少しずつ節約しても多額の借金はなくなるから、大胆な解決策を講じるべきであると主張している。それに対して、児童Vは少しずつでも地道に返済していくことの重要性を述べている。どちらも、借金は返さなければならないという規範的な知識は共有しているが、その返済方法を巡って考え方は異なっている。そのため、主張と批判とが対応し、討論が成立している。

この場面に明らかなように、児童は「借金は返さなければならない」などの社会的規範意識をすでにもっているといえよう。また、415Uの発言にも明らかなように、借金返済のために節約するならば自由になる資金が低減するなどの事実に知識をも共有しているようである。それらが討論する児童の間で社会的共有知となっているので、謝金返済に関する討論が成り立っている。ここに、児童がもつ価値観や社会的規範意識、社会的知識は児童が他の児童と議論する討論において、語られることはないものの、

その基盤となっていることを看取することができる。

このような社会的共有知は児童が共有するだけでなく、学校の外部においても人々に共有され、成立している知である。したがって、社会的共有知は学校での授業だけでなく、これまでの社会生活のなかで習得したものも含まれているであろう。また、学校の外部の人々とも共有するものであるので、討論する児童だけでなく、その発言記録を読むわたしたちも討論における発言の理解を可能にするのである。

（２）確認できない社会的共有知

教育改革派の立論に対して、どのような反論がなされたのであろうか。トランスクリプトから引用し、紹介する。

304 I：佐賀藩の藩士は国のためより佐賀のためにがんばる方が大事だと考えます。佐賀藩はその時点で借金がいっぱいあったんだから、国のためより佐賀のために財政改革をした方がいいと思います。あと、副島種臣とかがすごいことをしたといっていますが、その当時の佐賀藩はそういうことをするとは知らなかったと思います。

305**：意味がわかりません。（教育改革派児童より）

306*：Iくん、もう一度。

307 I：佐賀藩が優秀な人材を出して、いろんなことをするとは、その時点ではまだわからなかったと思います。

308**：あ～。（教育改革派児童より）

309*：なるほどね。例えば鍋島直正が弘道館をつくり直す時には、七賢人が出るとはわからなかったということね。それについて・・・Pくん。

310 P：日本のためにはなったけど、佐賀のためになっていないということに反論なんですけど、江戸時代は身分制度が厳しかったけど、大隈重信は2度総理大臣になり

身分を平等にしたから少しはくらしがよくなったんじゃないかと思います。

311*：総理大臣になって世の中が変わって、佐賀にもよいことがあったんじゃないかということだね。

ここでは、304 I の発言に着目したい。児童 I は論題に忠実に藩主としての立場から当時の佐賀藩がおかれた状況を考えて発言している。後半では藩政改革を始める時点で、教育改革の効果はわからなかったのではないかと質問する。児童 P は304 I 前半の反論に対して、まだ授業では学習していない明治時代の大隈重信の業績を持ち出して再反論を試みるが、「大隈重信が総理大臣になること」と「身分が平等になること」と「人々のくらしがよくなること」のつながりは不明である。そのため、教師は「総理大臣になって世の中が変わって、佐賀にもよいことがあったんじゃないかということだね」と補足説明をしている。

このような教師の補足説明があるものの、それでも「身分を平等にしたから少しはくらしがよくなった」という発言の意味は不明である。ここでは、次のようなことを明瞭な言葉で述べる必要があるのではないか。

- ① 社会の人々を平等に取り扱うならば、人々は平等なチャンスを生かして意欲的に活動することができる。
- ② 人々が平等なチャンスを生かして意欲的に活動するならば、社会は活性化する。
- ③ 社会が活性化するならば、社会的な富は大きくなり、人々の暮らしも平均的に向上する。

これらのことが言葉で述べられないので、理解できない。すると、これらの内容は、暗黙の社会的共有知とは言えない。したがって、先にトランスクリプトから引用した討論の場面においては、適切な社会的共有知は確認できないと指摘できよう。

5 おわりに

本小論では小学校社会科討論授業を取り上げて、その発言の分析を試みた。エスノメソドロジーが明らかにする背後期待としての、社会的共有知の観点から分析した。その結果について、まとめておこう。

第1は、討論を成り立たせているものは、討論における主張や批判等の発言だけではないことである。討論においては、発言として語られない社会的共有知が欠かせない。それは、会話においては語られることのない、語る必要を認めない背後期待である。また、それらは学校の外部の現実社会の人々と共有される実践的な知識でもある。その内容は、社会科授業をはじめとする学校教育において習得した知識だけではない。児童がこれまでの日常生活のなかでの家庭における会話やメディアによる報道との接触、さまざまな体験等を通して身に付けてきた社会的規範や社会的知識が大きく占めているのではないか。

第2に、討論の成立場面をみると、小学校6年生であっても、社会的共有知は大きいことである。一方、それが小さくなると討論の成立が困難になる。したがって、それらが児童相互の共通基盤としてあり、その大小によって言語を用いた討論の成否が左右されることを、教師は強く意識するべきではないだろうか。すると、社会的共有知が小さい場合には、発言する児童に、さらに言葉を重ねて説明するように導く指導が必要になるだろう。また、それが難しい場合は、教師による適切な補足説明が望まれよう。

このように考えると、社会的な討論学習を成立させるには、児童が社会的共有知を十分に形成しておくことが重要であると言えよう。それには、児童が社会的共有知を獲得するための学習機会を増やすことが考えられる。たとえば、日常生活においても社会的な言論に触れる機会を多くすることである。また、授業においても、社会的な問題についての議論を学習内容とすることによって、現実社会の社会的規範や社会的

常識について学習することも必要であろう。これらの点についての考察は、今後の課題とする。

最後に、執筆分担について記しておく。浦川による執筆は、以下のとおりである。

1 はじめに

3 単元授業「幕末佐賀藩の改革－君ならどうする－」の概要

4 討論授業の実際と分析

佐長による執筆は、以下のとおりである。

2 授業分析の方法

5 おわりに

なお、全体的に手を入れたのは佐長であり、それを浦川が確認して成文とした。

資料 1

第 6 学年 3 組 社会科学習指導案

日 時 7 月 21 日 (水) 10:05～10:50

場 所 6 年 3 組教室

指導者 浦川 雅雄

本授業の主張点

本授業では、幕末佐賀藩における第 10 代藩主鍋島直正の諸改革について討論し、その討論をループリックを基に評価することを通して、当時の状況に応じたよりよい改革についての考えを高めようとする児童の学びの姿を目指します。

1 単元名 「幕末佐賀藩の改革 ～君ならどうする～」

2 単元とその指導

- 本単元では、「幕末の佐賀藩において、もしも自分が藩主なら財政・教育・軍事、どの改革を優先するか」という課題について考えさせる。

江戸初期、身分制度の確立、大名の統制や参勤交代などにより確立した幕藩体制は、天保期に本格的な行き詰まりを示した。一方、佐賀藩では、藩政の成立当初から慢性的な財政難に喘いでいた。家臣に配分した知行地が多く、藩の財源となる蔵入地が少ないからである。また、幕府からの普請役、さらに参勤交代の費用、加えて長崎の警備費用も累積し、藩財政は窮乏していた。こうした財政難は、凶作・大飢饉、大洪水・台風などの自然災害によりさらに深刻となった。そのような時代に藩主としての実権をにぎった鍋島直正はつぎつぎと藩政改革を進めていく。佐賀藩の藩政改革は「財政改革」「教育改革」「軍事改革」に大別され、佐賀藩の技術力や人材は明治維新でも大きな力を発揮することとなる。

過去の時代においても、当時の人々は様々な現実の問題に直面し、解決しながら生きてきている。東日本大震災の復興やその財源の問題等が山積する現代および未来を生きる児童に、身近な自分たちの地域である佐賀藩が行き詰まりをどう打開していったかを調べて考えさせることは、今後の歴史や公民の学びにもつながり、よりよい社会の改革について吟味しようとする児童を育成することにもつながる意義あることと考える。

- 本学級には、自らインターネットや本などから歴史的事象を調べるなど、社会科学習に意欲的に取り組む児童が多い。これまでの討論では、ループリックの「資料活用」や「社会的価値や効果」の観点を意識して、調べた資料を活用してお互いに主張したり、相手の資料の曖昧な点を指摘したりすることができるようになってきた。また、討論を通して自己と他者とが重視する「平等」や「平和」「安定」などの社会的価値の違いにも気付くことができた。そして、貴族や武士と庶民など人々の立場や当時の状況を考慮してよりよい政策について考える経験をしている。しかし、主張を支える社会的価値や効果を比較して吟味することについては、まだ十分とはいえない。また、そのような自他の主張や討論を評価して判断する力も十分に育っているとはいえない。

事前アンケートによると、全員が本校に隣接する佐賀城本丸歴史館を見学した経験があり、「鍋島直正」や「江戸幕府」という言葉は知っているが、幕藩体制を説明することができたり「なぜ改革が必要だったのか」「改革は社会にどのような影響を及ぼしたのか」を理解したりしている児童は少ない。

- 本単元の終末に期待する児童の姿は、江戸時代の社会を理解するだけでなく、どうすれば佐賀藩をよりよくできるかを考える姿である。したがって、指導にあたっては、まず単元の「であう・つかむ」過程で「江戸時代末の佐賀藩において、もしもあなたが藩主なら、財政・教育・軍事、どの改革を優先するか」というパフォーマンス課題を児童に提示する。本単元では、当時の佐賀藩の財政難等に対する問題意識を高め、できるだけ当時の状況を考慮して判断させるために、「藩主」の立場に立たせる。そして、調べる必要感をもたせて、調べるべき問いを作成させてから調べ活動へと向かわせる。また、討論や意見文の評価基準表であるループリックも合わせて児童に提示することで、幕府と藩の関係や当時の状況、改革の目的や内容に着目するなど、より具体的な見通しをもたせる。

次に、「調べる」過程では、江戸幕府のしくみや幕藩体制をしっかりとつかませるために、大名の配置図や参勤交代の資料から幕府の意図を考えさせる。また、当時の佐賀藩の財政や人々の暮らしについての具体的な資料を活用して調べさせることで、江戸時代は農業生産が経済的基盤であり、年貢を取り立てることによって幕藩体制が成り立っていたことや佐賀藩の財政的な窮乏の状況を理解させる。そのうえで、よりよい社会を形成するためには、状況に応じてどのような改革を優先するべきなのかを考えさせるために、鍋島直正の財政・教育・軍事面の藩政改革の内容について詳しく調べさせる。

そして、「高める」過程では、討論を行う。どの藩政改革も重要ではあるが、討論をすることで改革の有効性について短期的・長期的な見方に気付かせたり、改革が人々に与える影響や効果について佐賀藩や日本全体の視点からも比較・検討させていく。また、討論だけではなく、ここでは、集団での討論の内容を児童がルーブリックを基に評価・判定をする。それは、評価をしていくことで友だちの主張やその根拠、根拠を支える事実や社会的価値、藩政改革の効果を見る目や判断する力が育つと考えるからである。討論をしている側もルーブリックや他者評価を意識して討論の内容を高めていくことができると考える。最後に、その討論の評価を吟味させることで、幕末佐賀藩の改革について何を大切に優先するのか、児童の考えをさらに高めていきたい。討論では、数名の中学生にも授業に参加してもらい、意見や感想、具体的なアドバイスを述べてもらう。それらのことが「ひらく」過程での知識や技能を総合的に使い社会的価値観を問うパフォーマンス評価での児童の論述の質を高めることや今後の単元での歴史に学ぶ意義を感じさせることに有効につながると考える。

3 単元の目標と評価規準

◎指導目標

江戸時代の幕藩体制や佐賀藩の深刻な財政難について理解させ、幕末佐賀藩の藩政改革の優先順位について討論をすることで、よりよい社会を形成するための考えを高める。

○評価規準

- ・江戸時代の幕府や佐賀藩の状況に関心をもち、問いを作成して藩政改革の目的や内容について意欲的に調べようとしたり、進んで討論に参加しようとしたりする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・当時の状況をふまえて佐賀藩の財政・教育・軍事面の改革について考え、表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・幕末佐賀藩の状況や財政・教育・軍事面の改革についての資料を取捨選択し、自分の考えの根拠として活用することができる。
(観察・資料活用の技能)
- ・幕藩体制と佐賀藩の改革を関連付けて理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

4 指導計画・・・全10時間

過程	時配	主な学習活動(○)と 予想される児童の考え(・)	指導上の留意点(○)	評価
であ う／ つか む	1	○佐賀藩の当時の状況や改革の概要をつかみ、パフォーマンス課題とルーブリックを知る。 パフォーマンス課題 「江戸時代末の佐賀藩において、もしもあなたが藩主なら財政・教育・軍事、どの改革を優先しますか」あなたの考えを述べなさい。 ○課題を分析し、調べるべき問いを作成する。	○当時の困難な状況に関心をもち、財政難や凶作、大洪水などの資料を提示する。 ○単元の学びの見通しをもたせるために、パフォーマンス課題とルーブリックを提示する。 ○調べる必要感をもたせ、調べる内容を明確にさせるために、課題でわからない言葉を確認する。	関 思

／ つ か む	1	○問いを分類・整理する。 ・江戸幕府とはどのようなものか ・幕府と佐賀藩の関係は ・佐賀藩の様子や人々は ・なぜ改革をしたのか ・改革とはどのようなものか	○個人だけでは気づかない問いに気付かせ、他者と共通の問いをもたせるために、グループで問いを分類・整理する場を設定する。 ○児童が江戸幕府や佐賀藩について調べることができるように、問いを具体的に助言をしたり、調べていく順序を確認したりする。	思
	2	○江戸幕府や幕藩体制と佐賀藩について調べて考える。 ・なぜ、幕府は大名を配置して参勤交代をさせたのか ・当時の佐賀藩の様子や財政は	○幕府の考えに気付かせるために、親藩・譜代・外様大名の配置図を提示する。 ○参勤交代の制度を理解させるために、「金沢藩の大名行列」の事例を取り上げたり、1655年の鍋島氏の予算を説明したりする。	資 思
	3	○身分制度と農民や町人のくらしについて調べる。 ・どのような身分があったのか ・農民のくらしは苦しかったのか ・佐賀藩の農村はどのような様子だったのか	○江戸時代は年貢を取り立てることによって幕藩体制が成り立っていたことを理解させるために、慶安のお触れ書や年貢・税および新田開発・米のとれ高等の資料を提示する。 ○佐賀藩の農村の様子を理解させるために、凶作や洪水などの年表を提示したり、「地主」と「小作人」について説明したりする。	資 知
	4	○鎖国政策と佐賀藩の長崎警備について調べて考える。 ・なぜ、幕府はキリスト教を禁止し貿易を制限したのか ・長崎警備は佐賀藩にとって負担だったのか	○鎖国政策について考えさせるために、キリスト教の禁止と貿易の制限に至る流れをつかませたうえで、鎖国の是非について話し合わせる。 ○佐賀藩が蘭学を積極的に取り入れた背景を理解させるために、長崎警備の負担だけでなくメリットはなかったのかを問いかける。	資 思
	5	○鍋島直正が藩主になった当時の佐賀藩の財政について知り、藩政改革について調べる。 ・財政難をどうにかしなければ ・具体的にはどんな改革をしたのだらう	○佐賀藩の財政難について解決への切実感をもたせるために、藩の借金の資料や江戸での直正のエピソードを紹介する。 ○望ましい改革についての考えを焦点化させるために、資料を準備して「財政」「教育」「軍事」に分けて改革の内容や効果を調べることを伝える。	資 知
高 め る	6	○立場を決め、立論を作成して検討する。 財政改革派 教育改革派 軍事改革派	○これまで調べた資料や自分で収集した資料を根拠にして立論を作成できるように、立論の例を提示してループリックを確認する。 ○立論を見直し、考えを高めさせるために、グループで予想される反論について考えるよう促す。	資 思
	7	○1回目の討論をする。 財政派と軍事派	○討論の内容を高めるために、立場ごとの3グループのうちの2グループで討論を行い、討論をしないグループにループリックで冷静に評価する場を設定する。また、討論者にも自己評価をさせる。	思
	8	○2回目の討論をする。 教育派と軍事派		
	9 本 時	○「どの改革を優先するべきか」3回目の討論をする。 財政派と教育派 ○討論を評価して、話し合う。	○資料活用と社会的価値や効果を意識した討論ができるように、ループリックを確認する。 ○かみ合った討論となるように、必要に応じて教師が論点を板書で整理する。 ○ループリックを基に評価させ、児童の考えを高めるために評価について話し合う時間を設定する。	思
ひ ら く	夏 休 み	○パフォーマンス評価（意見文）に取り組む。	○これまで調べた内容や討論を活かしてより説得力のある論述ができるように、事前に資料を配布しておく。	資 思 知
	10	○意見文をループリックに沿って自己評価・相互評価する。		

5 本時の指導・・・本時9／10

(1) 目標

「幕末の佐賀藩において、藩主は財政改革と教育改革、どちらを優先すべきか」について討論をしたりルーブリックに基づいて討論を評価したりすることで、状況に応じたよりよい改革についての考えを高めることができる。

(2) 展開

(は研究の視点にかかわる部分)

学 習 活 動	教師のはたらきかけ (○) と形成的評価 (◆)
1. 本時の論題 (単元の課題) やルーブリック (評価基準表) を確認する。	○ルーブリックの観点を意識した討論ができるように、また全員が評価基準を共通理解できるように、前時の討論の一場面をルーブリックで評価する場を設定する。
論題	
「江戸時代末の佐賀藩において、藩主は財政改革と教育改革、どちらを優先すべきか」	
2. 立論を述べ合う。 ～予想される児童の主張～ 財政改革派 <ul style="list-style-type: none"> 藩の役人の3分の1を整理し、実際の仕事に応じて相続米を支給すれば、節約になる。 江戸や大坂での経費節減や借銀(借金)の整理は財政再建に大きな効果がある。 教育改革派 <ul style="list-style-type: none"> 藩校弘道館からは、幕末や明治維新で活躍する優れた人材を生み出す。 西洋の医学や軍事・科学技術を取り入れ、藩も日本も強く豊かになる。 	○立論では、事実に基づいて討論を進めていけるように、資料から当時の佐賀藩の財政難の状況や改革の具体的な内容、金額や人数などの数字を引き出す。 ○反論での目のつけどころになるように、児童にメモをさせたり、その改革が佐賀藩にとってよいのかを確認したりする。 ○判定者に評価の見通しをもたせ、討論者には立論の不十分な点に気付かせるために、立論終了時点でどちらの主張が優れているかを判定者に尋ねる。 ○反論では、資料に対する反論からしだいに社会的効果の比較の議論になるように導いていくために、短期的・長期的に考えさせたり、改革が人々に与える影響やその人数、社会的効果について着目させたりする。 ○よりよい改革についての考えを高めるために、それぞれの改革を支える社会的価値(「藩の財政」「人々の生活」「命」など)を明らかにしていく。
3. 相互に反論をする。 教育改革派→財政改革派 <ul style="list-style-type: none"> 藩の役人からの不満があるのではないですか。 借金をふみたおすのはよくない。 財政改革派→教育改革派 <ul style="list-style-type: none"> 弘道館の運営には、まず予算が必要ではないですか。 	◆討論を評価し、その理由を述べるができる。 ◎討論を評価し、理由を記述し、佐賀藩の発展について特によかった発言やアドバイスを記述している。 ○討論を評価し、その理由を記述している。 →佐賀藩の発展についてよかった発言を問う。 △討論の評価に迷っている。 →ルーブリックと板書を確認させる。 →なぜ、その点数なのかを問う。
4. 討論を振り返って、自己評価・相互評価をして、判定を聞く 判定者 <ul style="list-style-type: none"> どちらも資料を活用していたのですが、私は○○派がよいと思いました。その理由は佐賀藩のことだけでなく、日本全体のことを長期的に考えていたからです。 	・できるだけ公平に判断させるために、判定者には、それぞれの議論を聞いて板書や自分がメモしたことを基に冷静に判定をさせ、数名にその理由を尋ねる。
5. 全員で評価について話し合う。 ・ぼくは○点にしました。なぜなら…	・それぞれの改革を支える社会的価値の重要性を比較させるために、ルーブリックの観点である社会的価値や効果の点数とその理由を発表させて話し合わせる。
6. 中学生の意見や感想を聞く。	・次のパフォーマンス評価(意見文)への意欲を高めるため、中学生には、討論の具体的な内容についてよかったところや今後の課題について述べてもらう。

資料 2

「幕末佐賀藩の改革」第9時授業トランスクリプト

日 時 2011年7月21日(木) 10:05~10:50

場 所 佐賀大学文化教育学部附属小学校

6年3組教室

対象学級 第6学年3組 児童37名

授業での発言者「A~X」とする

複数児童の発言は「**」とする

この授業は附属中学校1年生10名も
参観しており、Yはその一人である。

授業者 浦川雅雄 以下「*」とする

討論の論題

「幕末の佐賀藩において、藩主は教育改革と財政改革、どちらを優先すべきか」

討論のシークエンス

- 1 教育改革派立論(発言番号1~118)
- 2 財政改革派立論(201~220)
- 3 財政派から教育派への質問・反論
(301~322)
- 4 教育派から財政派への質問・反論
(401~418)
- 5 討論の判定(501~505)

101*: 今日は今までの討論で出てきた意見を2つ紹介します。みんなはどちらがいいのかを考えてください。1つ目は、佐賀藩の借金を返すことが佐賀藩の人々のくらしをよくする。2つ目は、全国で活躍する人を育てることが日本のためになる。左がいい人(挙手) 右がいい人(挙手)

102**: 同じぐらいです。どちらも大事です。

103*: なるほど、それにしてもどちらももう少し資料がほしいですね。借金はどれくらいなのか、とかね。では、討論を始めましょう。教育派の立論をどうぞ。

104A: 私は教育を優先すべきだと思います。その理由は、教育を優先すれば優秀な人物が出てくるし、教育は財政や軍事につながっ

ているからです。資料N o 4によると「伊藤玄朴は像先堂を開き、佐賀出身だけでなく全国的に多くの医者を育成した」と書いてあります。このことは、今の日本の医学の発展につながっていると思います。それに致遠館などの学校を設けたことで、七賢人や大隈重信などの優秀な人が生まれると思います。それに、大砲をつくるにもつくり方や英語を学ばなければなりませんし政治を動かすにも教育が必要です。このことから、二度も総理大臣になった大隈重信などのたくさんの優秀な人物を生み出し、財政改革や軍事をすることにも必要な教育をするべきだと思います。

(拍手)

105*: たくさんのことを言ってくれたね、Aさんは後半、何の資料を使って言っていたのかな。

106A: 資料8と9です。

107*: そこまで言えるといいね。では、Bさん。

108B: 私は教育に力を入れた方がいいと思います。理由は、資料9に「1865年ごろ英語学校の致遠館が設けられ多くの藩士が学んだ」と書いてあります。また、七賢人も全員弘道館に学んだという資料もありました。ということは、致遠館や弘道館で学問を修めない限り、七賢人は出てこなかったと思います。また、資料で「鍋島直正は藩の教育に力を入れ、多くの若い人が学び活躍するようになりました」と書いてありました。私の考えでは、軍事や財政にも力を入れたほうがよいと思いますが、その原点は教育にあると思うし、今から教育に力を入れたらよりよい社会になると思います。

109C: 私は教育に一番力を入れるべきだと思います。理由は資料に書いてあるように「佐賀藩の学校で大隈重信や副島種臣などが学

んだ」と書いてありました。そして、「大隈重信は・・・二度も総理大臣になり、副島種臣は外国との話し合いで活躍した」と書いてありました。活躍できたのは佐賀藩の教育のおかげだと思います。教育に力を入れることで、考える力もつき、財政・軍事面もよくなると思います。

110* : 似たところもあったね。教育が財政・軍事面にもつながる、本当につながるのかな？では、次の人。

111D : 中学生から見せてもらった資料に「幕末の佐賀藩士は例外なく・・・」

112E : 私は教育を優先するべきだと思います。その理由は大砲などをつくる時にも教育が必要だからです。資料によると当時の日本はまだあまり発達していなくて、オランダなどから大砲を輸入していました。その説明もオランダ語で書いてあります。なので、オランダ語や英語を覚えないといけないから、教育が必要だと思います。2つ目に天然痘のワクチンも全国的に広がりました。天然痘は奈良時代も流行しました。奈良時代は何万人も亡くなっていたのですが、ワクチンの広がりで亡くなる人数が減りました。このようなことから私は教育に力を入れるべきだと思います。

113* : 奈良時代、天然痘が流行って、聖武天皇は何をつくらせたんだっけ。

114** : 大仏

115* : でも、天然痘は収まりま・・・

116** : せんでした。

117* : ワクチンをつくることによって、どんないいことがあるの。

118** : 死者が出ない。病気にかからない。

201* : では、財政派の立論をどうぞ。

202F : ぼくは財政に力を入れた方がいいと思います。その理由は教育・軍事には財力が必要だからです。資料として、資料5に「弘道館の経費は1500石から1000石になった」と書いてあり、教育もいいと思うけど

すべてお金がかかってしまいます。お金がなくてもやらなくてはという人もいると思うけど、その時13万両、今のお金で105億3千万円の借金がある時にそんな無茶をしたら、佐賀がつぶれてしまいます。このことから、すぐれた人材を生み出すにも財政に力を入れることが必要だと思います。

202* : 数字を出してくると強烈だなあ。

203G : 私の考えでは、お金を使うと借金が増えて、次にお金を貸してほしい時に貸してもらえないかもしれないからです。なので、先に借金を返してから他の改革に取り組んだ方がいいと思います。

204* : 何か前に勉強したことと似てるなあ。Gさんは、まず借金を返してから次のことをするべきだという考えなんだね。では、次の人どうぞ。

205H : 私は財政改革を優先した方がいいと思います。その理由は資料5に「弘道館の経費は6倍以上に増加した」と書いてあります。教育改革はお金がかかるけど、財政改革は借金を減らすことなのでいいと思います。

206* : 節約をするべきだという考え方。もっと具体的にないのかな

207I : 資料によるとその頃、北海道などに外国船が来ていました。その時、もし教育を優先して外国船が来たら食料やお金もないから、日本は外国にやられて、さらに貧しくなると思うからです。

208* : 何とか事件ってありましたね。

209** : フェートン号事件。

210* : イギリスの船が長崎に来ただけで、佐賀藩は何もできませんでしたね。それで、薪や食料を与えてしまった。そういうことを言っているのかな。だから、蓄えをしておかなければいけないんじゃないかということね。

211J : ぼくは財政改革を優先するべきだと思います。その理由は教育を優先すると学校を建てるなど多くの費用が必要になります。

それに比べて財政改革は多くの費用が必要にはならないし、資料N o 1にあるように参勤交代の費用や人を節約しているから、財政改革を優先するべきだと思います。

212K : ぼくは財政改革を優先した方がいいと思います。理由は教育にお金がかかるということです。資料によると、「弘道館の経費は6倍以上に増加した」のに「25歳までに卒業できなければ役人に任用しない」など、とても厳しかったし、(藩校を)運営していくにもお金がかかります。でも、財政改革はお金を削減することだからお金はかからず、お金がないと藩校もつくれず、財政面を確保しないと佐賀藩にとってもよくないからです。

213L : ぼくは財政がいいと思いました。理由は佐賀藩は江戸時代末に借金があったから、まず財政改革を進めて借金を返した方が明るい未来になると思ったからです。資料に「鍋島直正が借金を返すのに15年もかかった」とあるので、最初に借金を返しておいた方がいいと思いました。しかも、教育や軍事に力を入れるためにはお金がいるし、借金には利息があり、短期間で借金の問題を解決してから長期間かけてじっくり教育に専念したほうが、いい人材も生まれると思うので、財政改革を進めた方がいいと思いました。

214* : 後ろの判定者の人たち、今のところどちらが優れているかを聞きましょう。どちらも資料は使えていましたよね。では、教育派だと思う人。(少) 財政派だと思う人。(多) わけが言えそうな人。Mくん。

215M : 財政派の方が、社会的に価値があることを言っていたと思います。

216* : 例えばどれ

217M : 佐賀がつぶれてしまう。

218* : 借金を返さなくてもどうにかなるんじゃないの・・・(児童の反応はあまりない)

219N : 私は財政派の方がいいと思います。理由

は教育派は多くの人が意見を言っているけど、優秀な人材が出るという同じ意見しか言っていないからです。財政派で資料をよく読んでいないのではと思ったところは、Lくんの「借金には利息がある」は、「借金を無利息で長期間で返済した」という資料があるので、その意見はどうかと思います。

220* : 教育派の人たち、ここは反論できそうですね。では、2分間作戦タイムをとります。

301* : 今度は財政派から教育派への質問・反論をどうぞ。

302O : ワクチンで天然痘の死者が減ったと言われたんですけど、何人減ったんですか。

303* : その資料はあるんですかということね。

304I : 佐賀藩の藩士は国のためより佐賀のためにがんばる方が大事だと考えます。佐賀藩はその時点で借金がいっぱいあったんだから、国のためより佐賀のために財政改革をした方がいいと思います。あと、副島種臣とかがすごいことをしたといっていますが、その当時の佐賀藩はそういうことをするとは知らなかったと思います。

305** : 意味がわかりません。(教育派児童より)

306* : Iくん、もう一度。

307I : 佐賀藩が優秀な人材を出して、いろんなことをするとは、その時点ではまだわからなかったと思います。

308** : あ〜。(教育派児童より)

309* : なるほどね。例えば鍋島直正が弘道館をつくり直す時には、七賢人が出るとはわからなかったということね。それについて・・・Pくん。

310P : 日本のためにはなったけど、佐賀のためになっていないということに反論なんですけど、江戸時代は身分制度が厳しかったけど、大隈重信は2度総理大臣になり身分を平等にしたから少しはくらしがよくなったんじゃないかと思います。

311* : 総理大臣になって世の中が変わって、佐

賀にもよいことがあったんじゃないかということだね。

312 I : 大隈重信が総理大臣になることがその時にわかっているんですか。

313** : いいじゃん、そこは。(教育派児童より)

314* : その当時、そこまで予想していたんですか、そこまで考えていたんですか、ということだね。

315 P : 願って・・・

316* : では、別のところからどうぞ。

317 Q : だれかが教育は財政や軍事につながると言いましたが、どのようにつながるんですか。

318 P : 例えば軍事面だったら、頭のいい人がすぐれた武器をつくることができると思います。

319* : 頭がよかったらよい兵器をつくれる、それ資料ありますか。

320 R : 当時の大砲はオランダから学んだから、まずそこを勉強しないといけないから、教育と軍事はつながっていると思います。

321 I : 財政改革でお金をためて、資料をいっぱい買った方が頭がよくなると思います。

322 S : 大隈重信のしたことは、本当に人々にとってよかったのでしょうか。資料集には「大隈重信の考えに反対した人もいた」と書いてあります。

401* : それでは次、教育派から財政派への質問・反論です。

402 P : 参勤交代でおとを減らすって言うんですけど、武家諸法度で参勤交代をするって決められているのに、幕府に許されるのですか。

403 J : 節約をできるのなら、減らしてもいいんじゃないですか。・・・

404* : 別のところからどうぞ。

405 T : 「まず借金を返すべきだ」と言いましたよね。資料にあるようにシーボルト台風の被害にあった人で貧しい人や農民に3千両

支給したと書いてあるから、(参勤交代で)1200両節約しても1800両、今のお金でいうと14億8500万円かかります。だから、佐賀の人のくらしは貧しくなると思います。

406* : 結局、Tくんは何を言いたいんだ。・・・少しだけ節約してもだめだってこと。

407 T : はい

408 L : 借金を減らすために財政改革をするから、それはちがうと思う。

409 I : 財政改革をしなかったら、もっと借金が増えるんじゃないですか。

410 U : その資料はあるんですか。

411** : それ資料いるの・・・(財政改革派児童より)

412 T : 借金は返せるんですか。

413 P : ちまちま節約していても借金は減らないから、大幅に節約しないと借金は減らないと思います。

414 U : 「次に借金を貸してもらえない」という資料はあるんですか。

415 U : 節約をしたら自分たちが使う分がなくなるのではないですか。

416 V : Pくんの意見に対して、借金はちまちまでも、こつこつ返すことが大切だと思います。

417 K : Uくんの「次に借金を貸してもらえない」という質問に対して、貸した方は利益がないと貸さないとします。

418* : ここからは、落ち着いてどちらが優れていたか、点数とその理由を書いてください。

【ループリックに記入】机間指導

501* : では、判定者の人、どちらかといえば、教育(少ない) 財政(多い)。理由を聞いてみよう。

502 W : どちらもよかったんですけど、財政派がよいと思いました。理由は財政派が社会的価値・効果の点数が高かったし、誰かが言っ

た「教育・軍事にもお金が必要だし、財政改革をしないと借金が増えてしまう」という言葉に私は納得したので、私は財政にしました。

503 X : 私もWさんと同じで、財政派がよいと思います。立論も反論も社会的価値・効果が教育派よりよかったし、それと、立論の資料に数字が出ていてよかったと思いました。

504 Y : ぼくも財政派がよかったと思います。数字とか資料の何ページとかを示したり、発表している数も財政派が多かったからです。アドバイスとしては、1つのことを深く掘り下げてもっとくわしく言うと言得力のある発表になったんじゃないかと思います。

(Yは附属中学校1年生)

505 * : 財政と教育はどちらも大事。考えが違う人が話し合うことで、佐賀も日本もだんだんよくなっていると思います。では、今日はここまで。